

経営比較分析表（令和6年度決算）

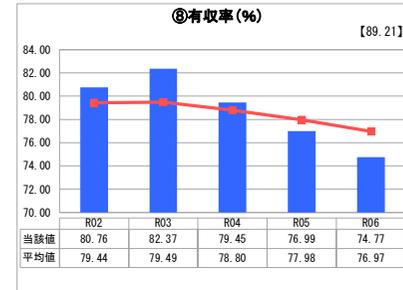
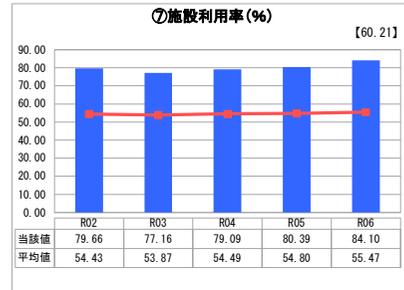
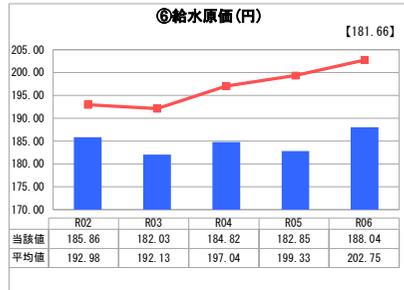
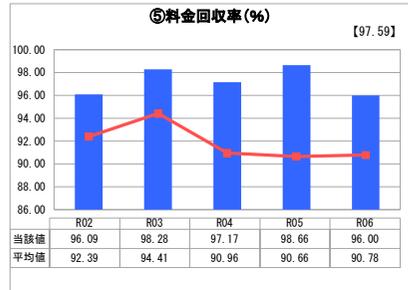
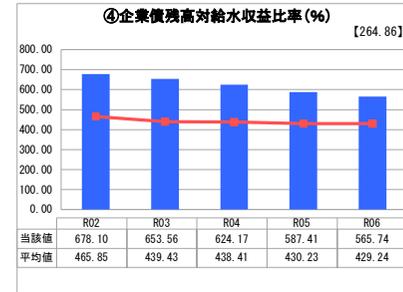
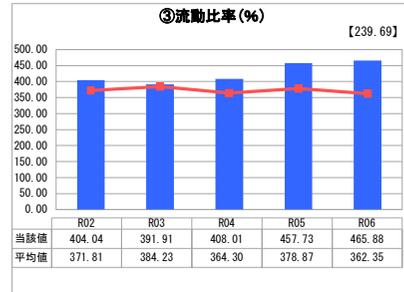
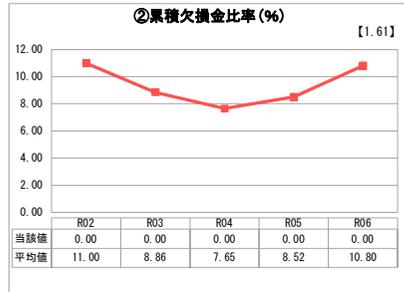
北海道 八雲町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	71.22	80.33	3,630	

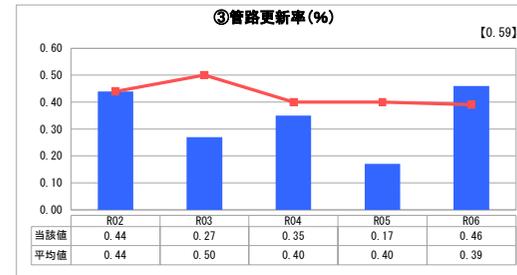
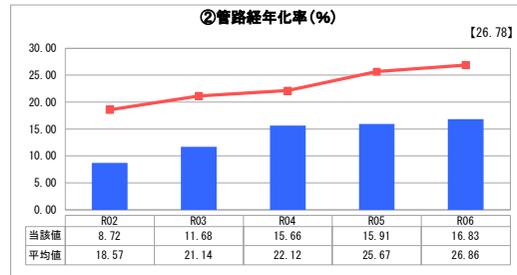
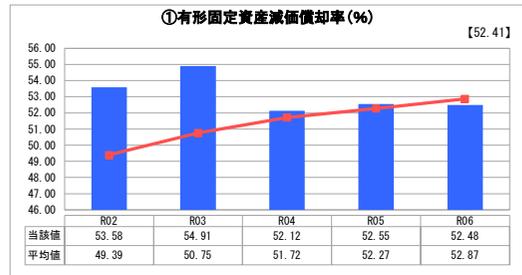
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
14,514	956.08	15.18
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
11,585	50.76	228.23

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 令和6年度は給水収益の減少により100%を若干下回る赤字決算となり、類似団体平均も下回る結果となった。また、その他要因として、平成29年度に行った八雲地域簡易水道事業と水道事業の会計統合（以下「会計統合」という。）の影響により、類似団体平均を下回っている。
- 累積欠損金は平成27年度以降、発生していない。
- 毎年度100%を大きく上回っているため支払能力は十分備えている。
- 安定的に水道水を供給するために必要な水道施設の更新を行っているが、会計統合の影響により大幅に類似団体平均を上回っている。
- 平成26年度に料金改定を行い、料金回収率は100%を上回っていたが、会計統合の影響により大幅な減少となり100%を下回った。また、動力費などの上昇により給水原価が上昇しているが、令和6年度時点では平成26年度以降料金改定を行っていないため、料金回収率は低下している。
- 会計統合の影響により費用が増加したため、平成29年度以降は費用効率が低下し、給水原価は上昇したが、類似団体平均と比較し、若干下回った状況となっている。
- 八雲地域簡易水道事業と水道事業の事業統合（以下「事業統合」）後、80%前後で推移している。
- 小規模な漏水事故の影響により100%を下回っている。

以上のことから、八雲町水道事業は現状では資金不足等は発生していないが、会計統合及び事業統合の影響

2. 老朽化の状況について

- 平成27年度以降、年々増加傾向となっており、平成30年度以降は50%を超えているが、類似団体平均を若干下回っている。
- 会計統合の影響により、法定耐用年数を経過していない管路延長が増加したため類似団体平均を下回っている。
- 今後は施設の大量更新期を迎えることにより管路の経年率が増加することを踏まえ、計画的な更新が必要である。

以上のことから、今後は法定耐用年数を迎える施設の増加が見込まれるため、それに伴い増加する更新事業をいかに計画的に行うかが課題となる。

全体総括

八雲町水道事業の現在の経営は資金不足等は発生していないが、会計統合による影響や人口減少に伴う給水人口の減少、施設の老朽化に伴う更新事業が増加することを踏まえ、更新に係る費用と経営状況を正確に把握し、健全・効率的な経営を維持しつつ計画的な施設の更新を行う必要がある。

そのため、平成28年3月に策定した八雲町水道事業の基本計画としての位置づけである「八雲町水道事業ビジョン」および令和6年3月に改定した「八雲町水道事業経営戦略」に基づいた経営に取り組んでいる。また、平成30年11月に事業統合し、合理的かつ効率的な事業の運営に取り組んでいるほか、令和7年5月分からは平均約7%の料金の値上げを行っている。